会

議

午前10時0分開会

議長（滝内久生君） おはようございます。

出席議員が定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。

直ちに本日の会議を開きます。

ここで報告の件がありますので、局長補佐をして朗読いたさせます。

局長補佐兼庶務兼議事係長（長谷川 薫君） 朗読いたします。

令和4年6月16日。下田市議会議長、滝内久生様。

発議者、下田市議会議員、沢登英信、同、佐々木清和。

議第35号 令和4年度下田市一般会計補正予算（第4号）に対する修正動議。

上記の修正案を地方自治法第115条の3及び下田市議会会議規則第17条の規定により、別紙の修正案を添えて提出します。

以上でございます。

議長（滝内久生君） ただいまより議会運営委員会を開催いたしますので、委員の方は第1委員会室にお集まりください。

ここで暫時休憩します。

午前10時1分休憩

午前10時6分再開

議長（滝内久生君） 休憩を閉じ会議を再開いたします。

委員長報告・質疑・討論・採決

議長（滝内久生君） 日程により、過日、それぞれの常任委員会に付託いたしました議第33号 下田市税賦課徴収条例等の一部を改正する条例の制定について、議第34号 下田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について、議第35号 令和4年度下田市一般会計補正予算（第4号）、議第36号 令和4年度下田市国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）、以上4件を一括議題といたします。

これより、各常任委員長から所管の委員会における審査の経過と結果について報告を求めます。

まず、産業厚生委員長、江田邦明君の報告を求めます。

1 番 江田邦明君。

〔産業厚生委員長 江田邦明君登壇〕

産業厚生委員長（江田邦明君） 産業厚生委員会審査報告。

本委員会に付託されました議案は審査の結果、次のとおり議決すべきものと決定しましたので報告いたします。

1 . 議案の名称。

- 1) 議第34号 下田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について。
- 2) 議第35号 令和4年度下田市一般会計補正予算（第4号）（本委員会付託事項）。
- 3) 議第36号 令和4年度下田市国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）。

2 . 審査の経過。

6月13日、第2委員会室において、議案審査のため委員会を開催し、市当局より長谷川産業振興課長、佐々木観光交流課長、平井建設課長、斎藤市民保健課長、佐藤税務課長の出席を求め、それぞれの説明を聴取の上、慎重に審査を行いました。

なお、委員会での各委員の質疑等の発言の要旨は会議録記載のとおりでございます。

3 . 決定及びその理由。

- 1) 議第34号 下田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について。

決定、全会一致で原案可決。

理由、必要な条例改正であると認めた。

- 2) 議第35号 令和4年度下田市一般会計補正予算（第4号）（本委員会付託事項）。

決定、全会一致で原案可決。

理由、必要な補正予算であると認めた。

- 3) 議第36号 令和4年度下田市国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）。

決定、全会一致で原案可決。

理由、必要な補正予算であると認めた。

以上でございます。

議長（滝内久生君） ただいまの産業厚生委員長の報告に対し、質疑を許します。

質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（滝内久生君） これをもって産業厚生委員長に対する質疑を終わります。

お疲れさまでした。

次に、総務文教委員長、中村 敦君の報告を求めます。

2番 中村 敦君。

〔総務文教委員長 中村 敦君登壇〕

総務文教委員長（中村 敦君） 総務文教委員会審査報告書。

本委員会に付託された議案は審査の結果、次のとおり議決すべきものと決定したので報告します。

記。

1. 議案の名称。

- 1) 議第33号 下田市税賦課徴収条例等の一部を改正する条例の制定について。
- 2) 議第35号 令和4年度下田市一般会計補正予算（第4号）（本委員会付託事項）。

2. 審査の経過。

6月13日、第1委員会室において、議案審査のため委員会を開催し、市当局より佐藤税務課長、須田総務課長、鈴木企画課長、日吉財務課長、佐々木防災安全課長、芹澤福祉事務所長、糸賀学校教育課長、平川生涯学習課長の出席を求め、それぞれの説明を聴取の上、慎重に審査を行った。

なお、委員会での各委員の質疑等の発言の要旨は会議録記載のとおりである。

3. 決定及びその理由。

- 1) 議第33号 下田市税賦課徴収条例等の一部を改正する条例の制定について。

決定、全会一致で原案可決。

理由、必要な条例改正であると認めた。

- 2) 議第35号 令和4年度下田市一般会計補正予算（第4号）（本委員会付託事項）。

決定、賛成多数により原案可決。

理由、やむを得ない補正予算であると認めた。

以上です。

議長（滝内久生君） ただいまの総務文教委員長の報告に対し、質疑を許します。

質疑ございますか。

10番 橋本智洋君。

10番（橋本智洋君） 1点だけお聞きしたいのが、当初の計画地が下田市河内46 - 1番地から、今度は稲生沢中学の101番の1に変わったということで、私ちょっと前から懸念をして

いるんですが、これ緊防債の適用になるかどうか、そのような議論はなされましたでしょうか。教えてください。

議長（滝内久生君） 委員長。

〔総務文教委員長 中村 敦君登壇〕

総務文教委員長（中村 敦君） 位置条例と緊防債の関係についての質問と思います。位置条例には46 - 1番、河内46 - 1と定めております。しかし、そもそもの建設計画地、北側用地は46 - 1だけではなくて、ほかに7筆ほどある中での代表の地番として46 - 1という条例になっております。ここを全く含まない計画となると、条例とそごが生じるわけですが、しっかりと含まれているので、問題がないということです。

さらに、緊防債については、46 - 1というこの地番で申請しているわけではなくて、河内における市役所建設事業という形をお願いをしているものですので、それについても、稲生沢中学校を使うことになっても問題がないということで、心配の必要はないというふうな議論がございました。

議長（滝内久生君） ほかにございますか。

13番 沢登英信君。

13番（沢登英信君） 今の件について引き続きお尋ねをいたします。

河内の46 - 1番地ですね、これで約1,500坪の土地を購入して建てるという計画であったわけです。当時、国に手続を取っていた当時、御案内のように、稲生沢中学校は中学校として開設されていまして、101番の1を地番に加えることはできないと、こういう事情にあったかと思えます。したがって、現在の位置条例の中には101番の1という稲生沢中学校の用地は含まれていないということは明らかです。

ですから、位置条例が定めてない中で先に建物を建てて、建ったから、ここですって位置条例を定めるということができるわけです。しかし、位置条例が定められている限りにおいて、位置条例の中に含まれていない土地を含んでいいだなんていう議論は全く暴論だと言わざるを得ないと思うわけです。

であれば、この緊防債の対象になるかどうか、きちり国に確認をしてる、担当者に確認をしてるのかどうなのか。議員の皆さんがこれで通るではなかるうかというような議論ではなくて、ちゃんと申請を出して、結果が出てくるわけですから、申請を出す、その出し先にきちり確認をしてるのかどうなのかということが問題だと思うわけです。そういう確認をされてるのかどうか、まずお尋ねをしたいと思います。

それから、35号のこの一般会計の補正予算についての予算書の17ページ、0225事業の新庁舎建設推進事業の予算2,740万及び債務負担行為の9,000万について、どのような議論がなされたのか、お尋ねをしたいと思います。

4年と5年で新庁舎の新築棟の設計をするんだと、こういうことですが、どういうわけで4年と5年に分けなければならないのか。2か年かかるのか。

さらに、なぜ9,000万円という数字になるのか。今年度は2,700万、そしてプロポーザルの礼金に4社で40万、こういう説明をされていようかと思いますが、それらの数字の根拠はどうなっているのかと。

そして、既に当初予算で稲生沢中学校の改修棟のほうは2,000万の設計予算が組まれているわけですので、これとの関連はどのように議論がされたのかと。具体的に言えば、どこの場所に新築棟を建てるのかということの定めなくして、設計依頼なんてことはあり得ないと思うわけです。そんなことをやったら訳分かんなくなっちゃうと思うんですが、委員会としてどこに新築棟を建てるのかというような議論がされたのか、されないのか、お尋ねをしたいと思います。

さらに、ここは、御案内のように、福井市長のときから浸水深2.2メートル。平成31年の3月15日に県が稲生沢川の洪水ハザードマップを公表して、そのときに2.2メートルの浸水深があると。になるんだと。その対策を取るためにと、もう一つは、40億を超えるような建設費であっては、コロナの中大変だということで、松木市長になって、事業を延期するという、こういう経過があるわけですので、稲生沢中学のこの土地、グラウンドの浸水深がどれだけになるのかと。

今の中学校の改築を、そのまま1階を含めて利用できるのかどうなのか、その対策が取れるのかどうなのかということが課題になってこようかと思うわけですが、それらの点が議論がされたのかと。この議論の経過の中では、当初建てようとしたところは中学校のグラウンドよりも1.5メートル高いんだと。したがって、中学校のグラウンドは1.5メートル低いという、こういうことから言えば、2.2メートル以上の浸水深に中学校の校舎はなるという具合に想定しなければならないと思うわけです。そういう状況の中で、どのように当初の2,000万かけた予算、設計が進められようとしているのかと。そこのところとの関連はどのように議論がされたのかと、お尋ねをしたいと思います。

さらに、松木市長は40億以上かかるだろうと、このまま福井市長が計画した計画を実行すると。こういうことも出てきてますし、多くの審議員の中でも、このウクライナへのロシア

の侵略戦争が始まっている中で、大変な資材の値上がりが想定されるだろうと。そういうことが言われているわけですので、設計をしても、それが実行されないと。建設事業者がいないというようなことが心配しなければならないと。

そうしますと、32億とっておりますが、40億以下に下げなきゃならない。32億の金額もさらに下げるといふ努力がなされるのかどうなのか。すべきだと思うんですけども、そういう議論が委員会の中でされたのかどうなのか。具体的に言えば、中学校の校舎を、元稲生沢中学校の校舎を解体をするのではなく、それを庁舎として利用する。あるいは体育館として利用する。解体してしまうというようなことでない方向を十分検討しろという意見が議員の中にも市民の中にもあろうと思うわけですが、それらの議論がどのように委員会の中で反映され、討議がされてきたのか、併せてお尋ねをしたいと思います。

取りあえず以上です。

議長（滝内久生君） 委員長。

〔総務文教委員長 中村 敦君登壇〕

総務文教委員長（中村 敦君） まず、地番についてですけれども、101 - 1、旧稲生沢中学校跡地が含まれていないのではないかという議論は、含まれていないという議論はございません。地番については、先ほど橋本議員の質問に答えた以上の議論はございませんでした。

繰り返しますが、当局の答弁としては、現状の位置条例において新庁舎建設計画を進めることにおいて、緊防債の適用についても何ら問題がないというふうに回答し、委員会としてもそれを納得した格好となります。

13番（沢登英信君） 回答を求めてもらったのかという点ですよ。担当部署に、国の。

総務文教委員長（中村 敦君） その質疑はございませんので、答弁もございません。

令和4年度、令和5年度における債務負担行為についての議論ですけれども、約15か月、令和4年11月から令和6年2月の15か月においてを委託期間とし、案分という答弁はございませんでしたけれども、その令和4年度分と令和5年度分ということで、2,700万と6,300万ということだろうと思われます。それ以上の議論はございませんでした。

それから、中学校改修と新築棟の部分のまず関連ですけれども、新築棟をどこに建てるのかという、そのような議論はございませんでした。ただ、設計業者が中学校の改修設計と新築棟の設計業者が変わる可能性があるという中で、その関連については大丈夫なのかという議論はございまして、それは、あえて中学校の改修設計業務と、それから新築棟の改修設計業務の期間をあえてダブらせてあります。それによってしっかりと連携してその2つの、仮

に2つの違った業者であっても、しっかりと連携して統一性のあるものになるように、十分に話し合っていくのだという議論がございました。

さらに、外構関係はどうなっているのだという部分の議論もございまして、外構については、旧稲生沢中学校を少なからず2年間以上、最小2年間先行して使うわけですので、その部分の接道に関する周りの外構あたりは、稲生沢中学校のほうの改修の部分に含まれるだろうと。そして、さらに全体の外構部分については、新築棟と含めて検討していくのだと。その検討も含めたプロポーザルになると。そういう議論でした。

それから、浸水についてですけれども、中学校が2.2メートルの浸水ということで、その対策についての議論は今回はありませんでした。それは今までの全協なり議会の中で当局の説明のとおりだと思います。

それから、予算については、具体的な数字についての議論はございませんでしたけれども、上限は、そのプロポーザルをかけるに当たって、新築棟の設計の費用の上限があるのかという部分については、もちろんあると。ただ、そのじゃあ上限額が幾らになるのかということ、この予算が通ってから、早ければ7月中にも示されるだろうと。もちろんその中には物価の高騰とか、そういうことも含まれて、十分に加味されるものであろうと期待するところです。

さらに、より安くつくる努力云々という部分については、今回、当委員会では議論はございませんでした。

次に、体育館の解体についてですけれども、解体については、4月の政策会議で決定しているということで、そして、じゃあ残して使用したほうがいいんじゃないかという議論ももちろんあるかと思いますが、じゃあ今現在体育館を使っている、例えば夜間に何かの練習で使っているような人たちはどうなるのかという部分に確認と議論がございまして、それについては、ほぼほぼ下田中学校と市内の小学校の体育館を活用することで振り分けるような形でしっかりと調整ができていくのだという回答です。避難所として使っていたという部分については、防災のほうで、ほかの中学校、ほかに閉校した中学校もある中で、そことも併せて防災のほうで対応はしっかり検討してもらおうのだという議論です。

そして、ちなみに、解体に関する補正については、9月補正で考えている。しかも、職員による設計でやろうかと考えていると。そういう考えを確認したところです。

以上です。

議長（滝内久生君） 13番 沢登英信君。

13番（沢登英信君） ちょっと一番最後の発言の、9月補正で職員の事務でやろうというようなことの内容がちょっと聞き漏らしたので、後ほどそこを繰り返していただけないでしょうか。

さらに、この移転案の問題は、先行移転をするんだということが指摘されてると思うんです。議会や市長室を元中学校の改修した棟のほうに一旦移して、さらに、新築棟が出来上がったら、これらの施設を再度新築棟のほうに移すんだと。移す理由というのは、新築棟のほうが耐震性が強固であると。したがって、強固な建物のほうに議会や市長室を移すんだと。こういう案になっているわけですけども、これらの先行移転案の二重移転は、多くの市民が納得しないところだと思うんです。無駄な金がかかるわけですから。そういう点についてどのような議論がなされたのか。

そして、政策会議で決定したからいいんですよ。それは当局が意思決定をしたということであって、議会や市民にきっちりと説明をしていくということが当然必要だろうと思うんです。そして、この経過については、矢田部議員の質問の中で、5月の23日ですか、それと30日だか、地元で2回ほどの説明会がなされたと。全体的なものは一度程度しかしていないという。こういう状態で設計に入って、既にもう、かつて何回も設計に入って、それが実現できなくて、実態的には私はそのお金が、使うことのできない設計図ですから、無駄になってると思うわけですけども、当局は無駄であったという反省の立場には立っていないと。その時々事情によって十分議論してやってきたんだと。こういう答弁しかよこさないわけです。このことは何を意味しているかということ、同じ間違いを松木市政も行うという、このことを宣言してるんじゃないかと思うわけです。逆の見方をすれば。そういう状況の中で、これが本当に委員会として、今言ったような点を議論がされてきたのかどうなのか。改めてお尋ねをしたいと思います。

それから、接道についての御説明、議論があったということをお聞かせいただいたわけですが、いずれにしても、北高、高校生の通学路であり、小学校への通学路にもなっているわけですね。交通上の。そういうことから考えれば、当然、この国道との接道というのは必要になってくるといことは誰しもが指摘するところだろうと思うんですけども、それらの点がどのように議論がされたのか。交通の、新庁舎への入り口、出口がどのように想定してるのかということ、重要なポイントだと思うわけです。庁舎としてですね。それらの点のチェックが、あるいは議論がなされたのかどうなのか、お尋ねをしたいと思います。

議長（滝内久生君） 委員長。

〔総務文教委員長 中村 敦君登壇〕

総務文教委員長（中村 敦君） まず、体育館の解体についての、繰り返しですけれども、解体に関する費用の補正は9月補正でお願いしたいというふうに答弁がございました。そして、なおかつ設計は、解体の設計は職員でやるということです。

そして、体育館関連で、市民説明が足りていないのではないかという部分については、特に議論はございませんでしたけれども、委員会の中で危惧されて質問されたことは、やはりこれまで体育館を中学生以外で活用していた方たちについてどうなるのだということについては、先ほど答弁したとおり、他の中学校とか小学校も活用した中で、既に振り分けは済んでいるのだということで、安心しているところです。

そのプロポーザルの中で、外構、そして接道、そして地域との在り方という部分も含めて、検討されるのだということで、そういう答弁で納得したところですので、それ以上、接道はこっちにあるべきだとか、いや、こっちに持ってこいとか、そういう具体的な議論には至りませんでした。全てはこれからのプロポーザル次第ということですので。

これで漏れてませんか。すみません。

議長（滝内久生君） 13番 沢登英信君。3回目です。

13番（沢登英信君） これで終わりますけど、やはり先ほどの答弁の中で、既に9月に予算を出して体育館は解体してしまうんだと。もうこの6月予算が、9月予算も実質的に織り込み済みのような、こういうものということは、まさにこの6月予算が十分審議されていないと、どんどんどんどん当局の政策決定だという形で進められていく。委員会としてチェック機能が果たされていないんじゃないかと思うんです。

委員長としてチェック機能が果たされているのかどうなのか、思ってるのかどうなのか、お尋ねをしたいと思うんですが、具体的には、下田小の体育館や中学校の体育館、これは学校施設ですよ。学校施設を夜間開放していただいて、利用されているという、こういうことだと思うんです。体育館としてあるのはサンワークしかないんじゃないですか。

そういう事実から言えば、下小の体育館や中学校があるから足りてるんだって、当局がそう言ったとしても、現実を見てみれば、そうではないでしょうというのが議員の立場だと思うんですが、例えばの話ね。そういうチェックを委員長としてしてきたと思ってるのか思っていないのか、お尋ねしたい。私はそういうチェックを、委員長として先頭に立ってチェックしようという姿勢がないんじゃないかと疑問を持ってますけど、いかがでしょうか。こんな疑問は間違いですよということを具体的に御答弁いただきたいと思います。

議長（滝内久生君） 委員長。

〔総務文教委員長 中村 敦君登壇〕

総務文教委員長（中村 敦君） 総務文教委員会は十分にチェック機能を果たしていると思います。

13番（沢登英信君） 理由を言ってください。なぜ、こうこうこういう事由があるからと。

総務文教委員長（中村 敦君） 各委員の質疑等の発言の要旨は会議録記載のとおりであると報告したとおりでございます。

以上です。

議長（滝内久生君） ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（滝内久生君） これをもって総務文教委員長に対する質疑を終わります。

お疲れさまでした。

次に、議第35号 令和4年度下田市一般会計補正予算（第4号）に対して、沢登英信君及び佐々木清和君から、お手元に配付しました修正案が提出されました。提出者の説明を求めます。

13番 沢登英信君。

〔13番 沢登英信君登壇〕

13番（沢登英信君） それでは、議第35号 令和4年度下田市一般会計補正予算（第4号）に対する修正動議を提案をさせていただきます。

発議者は、市議会議員、沢登英信、私でございます。同発議者は、下田市議会議員、佐々木清和でございます。

お手元の配付されました資料と令和4年度の下田市補正予算書をお出しをいただきたいと思います。黄色い表紙の予算書でございます。

それでは、説明をさせていただきます。

議第35号 令和4年度下田市一般会計補正予算（第4号）に対する修正動議。

上記の修正案を地方自治法第115条の3及び下田市議会会議規則第17条の規定により、別紙の修正案を添えて提出をするものでございます。

その内容は、新庁舎建設設計業務委託、令和4年度から5年の2か年をかけまして9,000万円に関わります予算を削除したいというものであります。

削除の理由は、稲生沢中学校施設を新庁舎として使うとの合意が十分にまず図られていな

いということでございます。つまり、設計予算を提出できるような現状に今ないと言えるのではないかと思うわけであります。

その第1に、河内46-1地番、ここ約1,500坪でございますが、から、元中学校校舎及び用地を利用する施設に変更しているわけであります。まさに変更をしているということであります。敷根民有地から河内に持ってき、河内46-1からさらに中学校の用地に移転をするという、こういう実態的には運びとなっているということであります。

そうしますと、河内の当初の予定で2.2メートルの浸水深があると言われていたわけであります。その土地よりさらに1.5メートルも稲生沢中学校の用地は下がっているということが本議会の中で明らかとなっておりまいます。したがって、元稲生沢中学校の校舎のグラウンドは少なくとも2.2メートル以上の浸水深がある場所だと、こう理解をせざるを得ないと思うわけであります。そういう場所に利用していいのかと。

私自身の意見は、中学校の校舎を使ったらいかがかという意見を持っておりますので、そこを利用することはやぶさかではありませんが、利用できるような条件や状況を議会や市民にきっちりと説明をするという、この手続が全くなされていないわけであります。したがって、国道から当初進入、庁舎に入ることができるというこの条件は削除されてしまうと。国道からは入れなくなると。こういう状況も違ってまいっているわけであります。

また、この経過の中で、1億2,000万円ほどかけました国道から進入して建設する4階建ての設計図が全く使えなくなる。無駄になっていると私は思うわけであります。にもかかわらず、当局はこれらの事実を無駄として理解をし、反省をするという態度に立っていないわけであります。それぞれ議論をして、そのときの経過があるから致し方ないんだと。このような、反省がせずに、責任も明確にされていないというのが、皆さん、現状ではないでしょうか。

これはまさに当局の責任だけではなく、これらの計画でよしとした議会の議決責任が強く問われなければならない。議員の責任が問われなければならないということを議員諸氏の皆さんに訴えたいと思うものでございます。まさに市民への説明不足であり、当局及び議会の議決責任を再び思い返さなければならないときであります。四たびも繰り返すのかと。繰り返さなくて済むような議決をしなければならない。そのことが私たち議員の責務であると思うわけであります。

そして、市当局には現庁舎の改修費、設計も含めて2,350万円の予算が可決されてあるわけであります。また、稲生沢中学校校舎4階の改修費の設計費2,000万円も既に議決がされ

てあります。その上に、さらに新築棟の設計を2年間かけて9,000万円を実施するんだと。このような事業を一時期に実施できるような体制が、皆さん、この今の下田市の市役所の中にあるとお考えでしょうか。私は、人材も能力もその体制も、残念ながら、ないと言わざるを得ないと思うわけであります。結局、業者に任せてしまえばいいと。職員のチェック機能が果たされず、業者に全て委託で事業が任されてしまうという、こういう実態がまた繰り返されるといことにならざるを得ないと思うわけであります。

今、この庁舎の改修がするということであれば、この庁舎の改修をきっちりとどのように改修できたかを見定めて、次の計画に移っていくというようなことが必要ではないでしょうか。このような手順を踏まない限り、再び9,000万円の設計費がまさに無駄になってしまうと、こう言わざるを得ないと思うわけであります。

また、多くの皆さんや市民の方々が、体育館を体育館として使えるように、体育館として使えないなら、どういうわけで庁舎として使えないのかと、こういう疑問が出されてまいっようなかと思えます。さらに、進入路の問題、庁舎からの退出路の問題、国道との接道、さらに、40年も60年ももつような施設を今この時点で計画する必要があるのかと。6,000平米とか延べ5,900平米もの大きな庁舎が必要なのかどうかと。4,000平米ぐらいの面積にとどめて、経費を軽くするという方向を取ったらどうかと。いろんな意見が出されてきていようなかと思うわけであります。これらの審議会の意見や市民の意見、あるいは議会で出された意見を十分にチェックして、まとめ上げた予算の段階、計画の段階になっているとは思われないわけであります。

したがって、32億でつくり上げるんだという当局のこの提案は、まさに空論になっているのではないかと、こういう疑問さえ持たざるを得なくなっていようなかと思うわけであります。こういう状態ですので、この予算を現時点では削減を、取ってしまえと、なくなしてしまえという提案でございます。

1ページを、資料の1ページをお開きいただきたいと思えます。当初予算の1ページと修正案の1ページを両方をお開きをいただきたいと思えます。

議第35号 令和4年度下田市一般会計補正予算(第4号)に対する修正案です。

議第35号 令和4年度下田市一般会計補正予算(第4号)の一部を次とおり修正する。

第1条中、「2億2,072万円」を「1億9,332万円」に、予算の総額であります、「115億5,739万8,000円」を「115億2,999万8,000円」に改めるものでございます。

これは本年度の予算の2,740万円をそれぞれ削除をするという数字となるものでございま

す。

次の第2条であります。債務負担行為の補正の規定を全て削ってしまうと。債務負担は認めないということでございますので、これを削除するということでございます。

そして、さらに、この補正予算書の6ページの第2表 債務負担行為の補正、追加という表がございますが、これも必要がなくなりますので、削除をするという内容となるものでございます。

次に、第1表 歳入歳出予算の一部を次のように改めるものでございます。

この財源となっております繰越金を1億2,500万円を9,760万円に、それで、計が3億2,500万円を2億9,760万円に、2,740万円をそれぞれ削除をするというものでございます。

歳出のほうも同様に、補正額のところの説明をいたしますが、総務費は6,267万6,000円を3,527万6,000円、計を17億1,826万7,000円を16億9,086万7,000円に変更するものであります。歳出の合計、一番下の欄ですが、同様に2億2,072万円を1億9,332万円に、115億5,739万8,000円を115億2,998万円に訂正するものでございます。

なお、説明資料の6ページ、7ページをお開きをいただきたいと思っております。補正予算書のほうの16ページになります。16ページ、17ページになります。

これは、先ほど申しましたように、歳出予算の0225事業、新庁舎等建設推進事業、謝礼の40万と新庁舎建設設計業務委託2,700万円、合わせて2,740万円を削除をするということでございます。

これに伴いまして、一般会計補正予算の28ページ、29ページの債務負担行為で翌年度以降にわたるものについての前年度末での支出額または支出額の見込み及び当該年度以降の支出予算額等に関する調書が不要となりますので、これを削除するという提案でございます。

以上で、説明を終了いたします。

議長（滝内久生君） 提出者の説明は終わりましたので、これより修正案に対する質疑を許します。

質疑ございますか。

1番 江田邦明君。

1番（江田邦明君） 修正案の提案理由という観点で御質問を4点ほどさせていただきたいと思っております。

提案理由の記載がございませんので、私が聞き取れた中での質問となりますが、間違っていましたら言っていただきたいと思います。

まず1点目、稲生沢中学校活用の議論が十分でないというところで、その中で、沢登議員の提案理由を聞いておりますと、今ある中学校及び体育館を使って新たな庁舎を造れば良いというような理由に聞こえましたが、仮に今ある中学校だけの場合、20年後、全てが使えなくなってしまうと思います。そのときどういった対応を沢登議員はお考えか、お聞かせいただきたいと思います。

2点目に、国道からの進入路についてでございます。これは前回の設計、人工地盤等で提案者が1社だけというふうに、私が議員になる前でしたが、聞いております。それによって建設費が大分コストが上がってしまったという状況でございました。仮にで大変恐縮なんです、今回の設計で仮に国道からの進入路が1億2億かかってしまった場合、沢登議員はそれでも国道からの進入路を造ったほうがいいのかどうかという考えを聞かせていただきたいと思います。

3点目が、現庁舎の改修に関連して、人材も予算も十分でないというような提案理由がございましたが、この新庁舎建設につきましては、津波浸水域からの予防ということが大きな前提であり、国からのそういった事業に対する補助、緊急防災・減災事業債の活用というものが大きな争点になってくるかと思えます。国が下田以外の自治体の状況も鑑みまして、令和7年工事着手、竣工ですかね、までが対象ということでございますが、今示されております下田市新庁舎建設基本計画改訂版の中では、このスケジュールの中では、この定例会もしくは7月臨時会等で新庁舎建設に関わる予算が取れないと、この緊防債の適用が危ぶまれる可能性がございます。仮に緊防債が使えない場合でも、沢登議員はこの予算を削除し、もう少しスケジュールをずらしたほうがいいのか、というお考えかどうか、お尋ねしたいと思えます。

最後、すみません、体育館の関係でございます。私も体育館はやはり必要かなという思いはございますが、今回の道路との位置関係ですと、体育館があることで庁舎を利用する方の交通安全の支障になってしまうという当局からの説明がございました。この点について、死角等で、体育館がもしあった場合ですね、利用者に万が一のことがあってはいけないという観点からも、この体育館解体という説明がありましたが、沢登議員はその点についてどのようなお考えをお持ちか、お聞かせいただきたいと思えます。

以上です。

議長（滝内久生君） 13番 沢登英信君。

〔13番 沢登英信君登壇〕

13番（沢登英信君） すみません、鉛筆を忘れてきちゃったものですから、記憶でお答えをいたしますが、その中の一番僕がポイントと考えておりますのは、当局が庁舎を、稲生沢中学の校舎を庁舎として使った場合、既にもう何年かたっているんで、あと20年しか耐用年数はないと。新築棟を建てることによって、40年あるいは60年を見通した建物を建てたいんだと、こういう提案でございますが、今の2万人の人口が切ると。年に500人からの人口が減少していると。こういう状態の状況ですね。大変この社会が大変革を、縮小をしてると。拡大ではなくて。そういう状態の中において、40年、60年先を庁舎として見通そうというこの計画そのものが妥当ではないんじゃないかと、私はそう考えております。したがって、少なくとも10年先、20年先が見通せるような庁舎であれば、それはやはり現時点では十分であると、こう考えるべきだと思うわけでありまして。経済状況から含めてですね。

ですから、そこに当局は、できたら60年、ここも66年たってるんだから、60年もつものをしっかり建てたいよと、こういうことですが、県の様子も、この期間言えば、下田幼稚園、あるいは下田保育園等々の施設も不要になっていく可能性はある。あるいは、県の総合庁舎も移転する可能性がないわけではないと。この数十年の間にはですね。そういう現状を考えますと、人口も減ってきますし、やはり今の中では、使い勝手がいいということと、経費をかけないということが大きな課題になってこようかと思うわけです。経費をかけずに使い勝手のいい庁舎をどう造るか。

こういうことから言えば、当局の見解は、福井さんが市長のときに出された基本構想、基本計画を再検討していないと。そのまま引き継ぐんだと。こういう姿勢に立っていますので、そこはやはり批判されるべきではないかと思うわけでありまして。

そして、もう1点は、防災上の拠点としたいと。庁舎をですね。それが大きな課題のポイントであったかと思うわけです。そして、さらに、それを建設するためには、自己資金が6億程度しかない。にもかかわらず、40億からの費用がかかると。これをどうクリアするかといえば、緊防債しかないんだと。こういう論理に立ってまいったかと思うわけでありまして。そして、緊急防災・減災は大体5年程度の期限があると。十分な議論が尽くされていなくても、この緊防債が適用になる期限の中に結論を出さなければならないと。こういう形でここ数十年間繰り返されてきたのが実態だと思うわけでありまして。

緊防債を利用することは必要かと思いますが、緊防債ありきで建設が進んでいきますと、結果として現在のような事態になってしまったと、こう私は思うわけでありまして。緊防債は期限がありますから、その期限を全く無視していいという考えではございませんが、やはり

緊防債の期限というのはそれぞれの状況の中で延ばされ、延期されてきているというのが実態であります。一定の期限がある中でも、やはりきっちり余裕を持って、将来を見通して建設していくことが必要ではないかと思えます。緊防債ありきで華美な、巨大な庁舎を造るよりも、今、極端に言えば、緊防債がなくても、自主財源を主にして、使える補助金や起債で実行するということであっていいと。こういう姿勢こそが今、当局にむしろ求められていることではないかと思えます。

それから、国道への接道でございますが、やはり防災拠点の庁舎をそこに持っていくということから考えますと、国道に接していない庁舎で防災機能が果たせるのかと、こういう課題に答えられないんだと思うんです。したがって、当局も、現時点では開発行為との関係があるのでややこしくなると。将来的には国道との接道を考えてますよと、こういう答弁をむしろせざるを得ない状況になっているんだと理解すべきだと思います。ですから、当局も国道との接道というのは考えざるを得ないと。ですから、そういう状態の中で、それらも含めてどのようにしていったらいいかということ、現時点でもう少し筋道をきっちりつけていくということが必要ではないかと私は考えているところでございます。

それから、体育館を庁舎として使えと。あるいは、体育館として使えという、この私の意見については、必ずしも絶対そうしなければならないということではなくて、それらのやはりいろんな見解や考え方があるわけですから、それらを比較していくということが少なくとも必要だろうと思うんです。この場合にはこうだ、この場合にはこうなるのではないかと。そういう比較論さえ不十分だと、こういう具合に思うわけです。その具体的な提案として、体育館として利用できないのかと。あるいは、それが無理なら、庁舎として、2,900平米の上に、体育館は約1,200あるということですので、4,100平米の延べ面積の施設が旧稲生沢中学校の施設を使って建設可能だと、こういう具合に思うわけです。

したがって、その意見が最良だとは思いませんけども、そういう意見がある以上、それを比較して、新築棟を建てるのと、それを解体するのと、どうなのかということの議論は緻密にする必要があるのではないかと思います。それらの議論もせずに、設計をするんだと。しかも、それは解体というのは決定で、9月には解体してしまうんだと。こういう決意といいますか、意思を当局が見せている限り、議会としては、ちょっと待ってくださいよと。十分に御検討くださいと、こういう姿勢を取るのが最良の議会としての妥当性のある判断ではないかと、このように考えるものでございます。

大体4点お答えできたでしょうか。抜けている点がありましたら追加してください。

議長（滝内久生君） 1番 江田邦明君。

1番（江田邦明君） すみません、2点ほど再度確認をとということで、国道の関係、当局からも道筋であったり考え方は示されていると思います。やはり一番コストがかさむ建設当時に負担を減らすということで、今回のような、時期をずらしての国道からの進入路という提案がありました。その点、沢登議員は、建設時、道筋が示されてますけど、沢登議員はお金がかかっても開庁と同時に国道からの進入路を造るべきかどうかという質問を再度させていただきたいと思います。

もう1点、体育館の関係ですが、私も議論があったかどうかというところ気になるところで、先日、本定例会の際に、4月26日に開催されました審議会の会議録、会議録という読み方でいいですかね、を議員に配付されてると思います。この中で新庁舎建設事業の稲生沢中学校体育館検討資料というものが示されておりますが、この資料は、沢登議員、見られた中で、議論が足りないということでよろしいかどうか、質問させていただいて終わります。

議長（滝内久生君） 13番 沢登英信君。

〔13番 沢登英信君登壇〕

13番（沢登英信君） この進入路の問題は、恐らく農地ですね。畑として今耕作されてる、そうでないところもあるかと思いますが、主に畑として耕作されてる用地ではないかと思うわけです。したがって、それは当然、用地交渉を始めるということが必要だと思います。状況は。

いつ買うかというのは、それぞれの売ってくれるかということもありますし、すぐに確保できるというものではないと思いますので、それは現段階で交渉すべきことではないかと思えます。いつ買う、手に入れるか、あるいは支払いをするかというようなことは、財政と相談してやらなきゃならないというのは御指摘のとおりではないかと思えます。

状況から言えば、あるべき姿から言えば、今、それらの土地も確保できるというのが一番いいんではないかと思うわけです。状況から言えばですね。そこに造るということであれば、確保するのが必要ではないかと思えますが、今、状況の中で言えば、設計そのものを考え直させて、こういう具合に言ってるわけですので、それらの交渉は必要かと思えますが、今時点で購入をすべきというような、お金を払うとか等々の時期ではないかと思えます。交渉はすべきだと思います。

そして、体育館については、議員懇談会ですか、あるいは全協等で指摘がされて、まとめていただきました。それも目を通しておりますが、その資料によって、体育館を解体をして、

することが妥当だという判断は、私には残念ながらできませんでした。それは、道等が狭いので、それから、体育館にするには9メートルの道路と接道していなければ市民体育館として利用できないか、その文書の中にはそういうことは入っていないと思いますが、説明の中でそういう説明を受けたかと思うわけです。

そうだとすれば、それは、健康づくりの部屋であるとか、ほかの利用が、壊すというのは私は最悪で、3億から4億もかかるような建物を壊して更地にしてしまうということではなくて、それを最大限利用するという姿勢を追求するということは必要だと思うわけです。

そして、にもかかわらず、壊したほうがいいんだという結論が出れば、それに賛意を示したいと思うわけでありますが、当局が出された資料を読み解く限りにおいて、体育館を壊したほうがいいという結論が先にあって、後からその理由をくつつけたのかなと、こう思うような内容という判断を私は残念ながらいたしました。

以上です。

議長（滝内久生君） ほかに質疑はございますか。

10番 橋本智洋君。

10番（橋本智洋君） 沢登議員が先ほどおっしゃってました、元の計画地の浸水深は2.2メートルで、学校の土地はそこよりも1.5メートル低いということを発言されてたようですが、実際、下田市新庁舎建設基本計画の改訂版50ページを見ますと、ここにやはり旧稲生沢中学校地盤レベルで約2.2メートル浸水することが判明したとなっております。また、総務文教委員会のこの当局答弁でも、やはり2.2メートルの水深は学校敷地グラウンドレベルから2.2メートルであるというような回答をいただいております。その認識はいかがでしょうか。

議長（滝内久生君） 13番 沢登英信君。

〔13番 沢登英信君登壇〕

13番（沢登英信君） 重要なポイントだと思うんです。私の記憶ですと、平成31年の3月の15日に県が稲生沢川のハザードマップ、洪水マップを発表いたしました。そのときは河口から深根橋まで9キロ、それで、この河内から下田にかけては3メートルから10メートルの浸水深があると、こういう説明書きがありました。

そして、庁舎を建設するんだということがちょうどそのときと重なってきていますので、県の方がさらにこの、何メートルメッシュというんでしょうか。現在は5メートルメッシュで調査をしてるようですが、そういうことの中で、46-1は2.2メートルの浸水域があ

ると、こういう具合に当時言われてました。ですから、それに基づいて当局は、電気だとかポンプをちょっと2メートルぐらい上げればいいんじゃないかと。2階に持っていけば十分ですよ。こういう説明で、あくまでも庁舎を46 - 1に建設するんだと、こういう具合に言っていたかと思うんです。

そして、今度、中学校を使うんだということになりましたら、中学校のほうが2.2メートルだと。したがって、元の建てようとしたところは1.5メートルぐらいの浸水深しかないんだと、こういうことを言い始めた。こういう経過でございます。

したがって、本当のところはどういうことだということで、県が発表してるわけですので、昨日、数人の議員と御一緒に担当者に聞きに行って、この図面をもらってきました。これはこの河内の中学校、それから建設用地のところの浸水深を5メートルメッシュで表示したものでございます。これ後ほどあれなら提供いたしますけども、大体元のところの一番大きいところでは2.796になっております。そして、ほとんどのところ、一番低いところで0.914、それから、平均的に見ますと1.5メートルから1.6メートルぐらいの浸水域と。旧のところはですね。そして、中学校の校舎のグラウンドは2.2が多いです。最高が2.58、2メートル50以上の浸水深があると。学校が建ってるところは大体2.4から2.2ぐらいの範囲の浸水深と、こういう表示になっていようかと思えます。

お答えになったでしょうか。以上、そういう理解をしております。

議長（滝内久生君） ほかに質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（滝内久生君） これをもって修正案に対する質疑を終わります。

お疲れさまでした。自席にお戻りください。

以上で、委員長報告と質疑、修正案の説明と質疑を終わります。

ここで休憩したいと思います。11時30分まで休憩します。

午前11時17分休憩

午前11時30分再開

議長（滝内久生君） 休憩を閉じ会議を再開いたします。

これより各議案について討論、採決を行います。

まず、議第33号 下田市税賦課徴収条例等の一部を改正する条例の制定についてを討論に付します。

まず、本案に対する反対意見の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（滝内久生君） 討論はないものと認めます。

採決いたします。

本案に対する委員長の報告は原案可決であります。本案は委員長の報告どおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（滝内久生君） 御異議はないものと認めます。

よって、議第33号 下田市税賦課徴収条例等の一部を改正する条例の制定については、委員長の報告どおり、これを可決することに決定いたしました。

次に、議第34号 下田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定についてを討論に付します。

まず、本案に対する反対意見の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（滝内久生君） 討論はないものと認めます。

採決いたします。

本案に対する委員長の報告は原案可決であります。本案は委員長の報告どおり決することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（滝内久生君） 御異議はないものと認めます。

よって、議第34号 下田市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定については、委員長の報告どおり、これを可決することに決定いたしました。

次に、議第35号 令和4年度下田市一般会計補正予算（第4号）及びこれに対する修正案を一括して討論に付します。

まず、原案に対する賛成意見の発言を許します。

10番 橋本智洋君。

〔10番 橋本智洋君登壇〕

10番（橋本智洋君） 議第35号 令和4年度下田市一般会計補正予算（第4号）に賛成の立場での答弁をさせていただきます。

まず、現庁舎は3棟とも耐震性がなく危険な状態でございます。早期に来庁する市民、そ

して働く職員の安全を守るためには、やはり早期に設計着手することが必要と考えます。これは前福井市長のときではなく、これ松木市長になりまして、職員の今の現庁舎での安全性というものを非常に強く考え、そして行動に起こしております。そのあたりを私たち議員はやはり理解するべきだと考えております。

また、次に、全体のスケジュールと緊防債に関して、こちらは非常に当初から大きな争点となっておりました。令和5年3月31日に緊防債が本来はここで終わるところが、現段階で緊防債の適用期限は令和7年度末までになりました。そのような緊防債の適用が受けられない場合、市の負担は大幅に増えることが予想されます。また、スケジュールに沿って計画的に進める必要があると思います。やはり致し方ないことですが、このやはり緊防債ありきというなら、非常に判断基準の中で重要なものになっております。これも長年何度も、この庁舎に関しては四度も変わってきておりますけれども、やはりこの緊防債ありきの部分、財政の負担を考えますと、緊防債ありきというのが一番の判断基準の優先順位になっていくことは、これは否めないと思います。

次に、校舎と新築の分棟は使い勝手が悪いとの意見がございましたが、市民や職員の動線はなるべく短いほうがよいと考えますが、基本計画で示された校舎隣接の場所に新築棟を建てるのであれば、そこまでの不便はないと考えます。現に今の庁舎も本館、西館、別館でそれぞれが異なる時期で整備されておりますが、大きな支障とは感じません。

学校施設を、足りているかということも踏まえて、後ほどまた説明させていただきますが、それ以上、今の状況以上に、既存施設を活用して建設費を縮減するほうがメリットが大きいと考えます。当初の計画、前回の計画事業費に関しては、落札不調になりました。そのときは36億9,000万という予算かかっております。今の現状では28億から32億というような計算になっております。それを考えると、やはり15%から25%の経費及び予算の削減につながっていると考えられます。早急に進めるべきだと私は考えております。

また、積極的に中学校の校舎を活用すべきと思います。これはやはり校舎と新築棟で新庁舎を構成する当局の考えは、使い勝手と事業費圧縮を両立したバランスのよい、今の現状の時代背景においてはよいと、ベストと考える次第でございます。3月も答弁申し上げましたが、やはり既存施設のリノベーションにより使えるものは使うという考えは、今後の御時世、非常に重要なものでないかと考えております。環境負荷を減らすためにも非常に重要なことと。なかなかやはり校舎等を使ったりリノベーションというのは、この時代において、やはり下田市として全国に向けて発信をするよい機会ではないかと考えております。

体育館と校舎がよいと、体育館は校舎でよい、また、新築は不要というような考えもござい
ますが、私、実際、体育館を一番利用し、また理解している議員だと自負しております。
やはり何度も中体連、それからバスケットボール、夜の体育館の活動等に関して、何度も何
度も足を運んでおります。その中で、やはり稲生沢中学校、本当にあそこの部分は車2台が
すれ違えない、そういうような環境でございます。

本来ですと、やはり体育館、本当に残していただきたいというのが個人的には思う次第
でございますが、やはり5メートルから6メートルぐらいの間隔しかないところを考える、
そうすると、やはり庁舎、来られる皆様を考えると、どうしても安全性に対して非常にリス
クが高くなるというようなこともあります。やはり、出入りが混み合うと、市道にはみ出し
やすく、リスクを負うというようなことになります。やはり、体育館、3億、解体費に約3
億ですか、かかりますけれども、体育館がなく、やはり広い駐車場、使いやすい駐車場は、
安全性の担保という面で非常に重要ではないかと思えます。本当に心苦しいですけども、体
育館解体ということをしなければ、やはり安全性というものは確保できないと思う次第で
ございます。

以上をもちまして、令和4年度下田市一般会計補正予算（第4号）に原案賛成の立場での
答弁を終わります。

以上でございます。

議長（滝内久生君） 次に、原案及び修正案、両方に対する反対意見の発言を許します。

ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（滝内久生君） 次に、修正案に対する賛成意見の発言を許します。

5番 矢田部邦夫君。

〔5番 矢田部邦夫君登壇〕

5番（矢田部邦夫君） 債務負担行為補正追加分の事業予定額9,000万円の範囲内で新庁舎
建設設計業務委託する旨の契約を令和4年度において締結し、令和4年度予算計上額2,700
万円と、それを超える金額の6,300万円については令和5年度において支払うということに
対して、また、謝礼40万についても削除することに賛成の立場として意見を申し上げます。

謝礼については、プロポーザルで5業者のうち4業者に絞り、支払うとのことですが、私
の考え方は、業者が受注するための参加なので、支払わなくてもよいのではないかと考えて
おります。下田市の財政は現在非常に厳しい状況下にありますので、よその市町は関係なく、

下田市として検討するべきではないでしょうか。

それから、新庁舎建設事業については、1月12日に先行移転方針の説明があり、同24日には意見交換会が開催され、2月18日には全員協議会、その後、3月の定例会で予算計上という流れがあまりにも速く、議会との話し合いが十分に果たされておりません。予算決定後に、5月12日、市民文化会館で、説明会ではなく報告会として開催されたと私は思っていますが、後にも先にも庁舎建設事業に対してはこれ以外、市民への説明会として一度も開催されておりません。億単位の事業費が公金から支払われていくことを考えると、これでよいのでしょうか。

また、5月11日に基本計画の改訂を提示され、渡されましたが、内容は、体育館、技術棟ほかは解体と報告を受けたり、行き当たりばったり、思いつき、しっかりとした計画性もなく、その都度訂正、変更もあり、全体の基礎的な方針となっている考え方や発想が見えない。建設場所も変更となっており、従来の位置条例で決まっていた場所ではなく、グラウンドに変更されていました。

位置条例で決定している建設場所は浸水深2.2メートルと今までは報告を受けておりました。当局の説明では、今度のグラウンドの建設場所が浸水深2.2メートルで、元の位置との段差は1.5メートルあるので、70センチメートルの浸水になると表現が変わってきております。しかし、グラウンドの周囲には約1メートル強の幅の排水路があり、元の位置で浸水深2.2メートルであれば、グラウンドは約3メートル強になると思われます。

この件についてはいろいろ議論があるところですが、令和2年の11月に新庁舎建設を延期されたわけですから。そのときは、そのときの理由の2つの中の1つが浸水深2.2メートルということが言われておりました。だったら、この話は私は違うんじゃないだろうかというふうに解釈しております。だから、当局が、言い方は悪いですけども、ごまかしではないかと思いたくありませんが、おかしくないでしょうかという考えを持っております。

先ほど沢登議員が、県のこの資料ね、私も頂いてきております。これですね。これは31年3月に公表された資料だと思います。それからいくと、令和2年にはもう既にグラウンドのところは2.2メートルというのは承知していたし、庁舎位置の位置条例で決まった位置は1.7メートルというのは、約ですよ、いろいろ高低差がありますから。大体ならずと1.7ぐらいになると思いますが、1.7メートルということであったと思います。それが今回こういう形で流れてきたというのは、ちょっと私は不自然じゃないのかなというふうに捉えております。

それから、稲生沢地区の3地区において、5月23日を初めに、河内区、蓮台寺区、立野区、

30日に上大沢区、6月3日、下大沢区における説明会として開催されました。内容については、区民の方からの意見として、全ては決まっていることが前提で、何を言っても計画どおり進めることに終始し、これだと市のやりたい方向で何事も進められてしまうことになるのではないかと大変心配しておりました。これでは、今後、何事も進めたい方向で進められてしまうことになると参加した区民の方の意見がありました。

よって、今回の基本計画については、内容が分かりづらく、説明不足は否めない。二転三転し、言いようによっては付け焼き刃的な感を受けますので、私は削除することに賛成いたします。

以上です。

議長（滝内久生君） 次に、原案に対する賛成意見の発言を許します。

12番 大川敏雄君。

〔12番 大川敏雄君登壇〕

12番（大川敏雄君） 私は、議第35号 令和4年度下田市一般会計補正予算（第4号）について、賛成の立場から意見を述べさせていただきたいと思います。

まず、おさらいでございますけれども、今回の補正予算に提案されている新庁舎建設事業の概要であります。新庁舎建設設計業務委託費用、令和4年、令和5年2か年間で総額9,000万円を限度額にして、債務負担行為により、令和4年度では基本設計を2,700万、基本設計を作るために2,700万、令和5年度は実施設計で6,300万を計上しました。

とりわけ本年度の2,740万のこの基本設計事業概要は、建物は新築棟、基本設計で、外構のほうも対象になっておりまして、私は総体的に体育館の解体、あるいは技術棟の解体は現時点でやむを得ないと思うわけでありませんが、その土地を市民の利用者の駐車場に使うと。あるいは、稲生沢中学校に隣接している北側用地の公用車の駐車場、さらには、新築棟、改築棟の周辺と、こういう外構の概要も基本計画の策定の対象になっているわけでありまして。

なお、新築棟の新設基本設計における設計者は、選定方法としては、公募型プロポーザル方式を採用して、選定スケジュールを本年7月から本年11月までとしているのが、本年のこの補正予算の概要であるわけです。私自身、この令和3年9月、去年の9月以降の新庁舎の建設に向けての経過を整理するとともに、その対応についての私の見解を述べさせていただきたいと思います。

現在の下田市役所の位置条例は、市役所の位置を平成29年12月に下田市河内46番地の1に改定したものを、令和3年9月議会において施行期日を令和7年度まで延長することを定め

ました。令和3年度実施した旧稲生沢中学校の耐力度の調査により、旧稲生沢中学校の施設を新庁舎の一部としての利用が可能であることが判明いたしまして、その経済性、持続性を考慮しますと、旧稲生沢中学校施設を有効に活用していく方針となり、その方針に基づいて、令和4年度当初予算に稲生沢中学校校舎改修工事設計業務委託費2,000万円が計上され、下田市議会は本年3月定例会において、多数をもって可決承認をいたしました。

下田市の新庁舎建設基本計画の改訂版におきましては、この庁舎の新築棟は、いわゆる改修棟、つまりは旧稲生沢中学校の校舎でございますが、この新築棟と改築棟との往来、ネットワークの構築など、連携しやすい東側隣接地に配置する計画となっております。本議会に提案された新庁舎建設設計業務委託費はこの方針を前提にしたものであり、私は適切なものだと判断をしているわけであります。

下田市役所のこの位置条例の改正でございますが、現条例における下田市役所の位置、下田市河内46番地の1は、本庁舎の本体を稲生沢中学校の用地内に変更するため、今後、位置条例の改正をする手続をすることが委員会の審査の中で判明いたしました。私はこの手続については良といたします。つまりは、現条例でこのいわゆる稲生沢中学校の土地にいわゆる新築するということは、条例上の違反ではないけれども、最終的にこの建設された場合には位置条例を改正すると、こういう表明がありまして、このことについては良とするものであります。

事業費の縮減に向けた対応についてであります。新庁舎建設基本計画改訂版では、全体事業費用を28億から32億以下として、旧中学校改修を含め、新庁舎の工事費用を20億円程度に抑えることが望ましいとしておりますが、昨今の建設コストの増加が見込まれることから、教育委員会を中学校改修棟へ配置する等、全体事業の縮減をさらにさらに私は努めるべきだと、そういう意見を持っております。

ともかく、平成23年3月11日のあの東日本大震災以降、取り組んできました下田市の最重要課題である新庁舎建設事業を、この今提示されました基本計画の改訂版のスケジュールどおり、令和8年度の供用開始を目指して推進されるよう、当局も議会も、私は全力を尽くすべきであると思います。

以上のような観点から、新庁舎建設事業に関し、私の見解を述べて、補正予算を賛成するものであります。

以上です。

議長（滝内久生君） 次に、原案及び修正案、両方に対する反対意見の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（滝内久生君） 次に、修正案に対する賛成意見の発言を許します。

9番 進士濱美君。

〔9番 進士濱美君登壇〕

9番（進士濱美君） 私、議第35号に対する動議、修正動議、議案につきまして賛成の立場からまずもって発言させていただきます。

先ほど来より発議者から細部にわたる説明ございました。それから、賛成意見として矢田部議員からの賛成意見出されておりました、大方討論の要点となる問題点というのは洗い出されているだろうと私も思います。よって、私が新たな要点、疑問点を本日は申し上げいたしませんけども、大きく分けて、簡単にではございますが、述べさせていただきます。大まかな2点でございます。

まず、計画そのものが、いまだかつて全体像が見えていない、つくられていない、提示されていないと。先ほどの委員会でも提示されていただきました基本計画改訂版を読みましても、例えば金額におきましても28億から32億とか、先行移転の方法論があるとか、曖昧な部分、いわゆる間延びした部分というのは相当加えられております。よって、非常に私どもは考えにくいと。判断もしにくいという思いでおります。

ましてや住民の方につきましては、先ほど来より行われました説明会が細部にわたって質問も出ておりませんでした。これは恐らく疑問点、要点、論点が見えていないんだろうと思っております。

しからは、さきの福井市長のときにも私も議員でした次第でございますけども、あのときも4階建て新庁舎の設計ぎりぎりになりまして特別委員会を立ち上げ、それから提言申し上げた次第でございますが、それに伴って、1,800万の設計費の増額と改定予算が組まれたわけです。それらを含めまして、1億2,000から1億3,000万の設計費が現時点ではほとんど使われないという結果を生んだわけですね。

設計自体が、先ほど来より矢田部議員も示されましたけども、土木、県のほうが出しております浸水深の件につきまして、委員会、13日の月曜日でも驚いた説明をいただきました。私自身も当時の設計においては、北側のいわゆる新築予定地、購入予定地は2.2メートルの浸水であるということでございました。2.2メートルと申し上げますと、ほぼ天井に近い浸水になるわけですね。これでは非常に危険だなということで、発電機等の手直しをしなければということで、ほぼ設計が白紙に戻ったという結論だろうと思います。

しかしながら、今回新たに出していただいた原簿によりますと、稲生沢中学校がやはり2.2メートルから2.4メートル。お話に出ているとおりでございます。公有地の1,500坪内外が、浸水が高いところで1メートル99、2メートル近いんですが、浅いところになりましたら1メートル13レベルと。平均で1.5メートルという説明をいただいております。

しかしながら、これについての説明が不十分。それでは、例えば今回、庁舎が稲生沢川の、中学側のグラウンドに建つといたしますと、2.2メートル前後の浸水の中に稲生沢中学のワンフロア1階部分がほとんど天井まで浸水すると。新たに増築する新棟部分も1階部分が同じように天井近くまで浸水がするということになるのか、あるいは、設計によってそれがクリアされるのか、これが説明をいただいております。

ですから、これが2.2メートル両方の棟が浸水するとなれば、相当なワンフロアが水浸しになるということでございます。これではもろ手を挙げて賛成はできないと。そういう説明もまだいただいております。よって、設計がまだ見えていないというのが第1の論点でございます。

それから、もう1点、やはり重要な財政的な問題がございます。今回示されております28億から32億、これ6,000平米、約。坪で言いますと151万。ですが、これは現状のウクライナ侵攻が発生する昨年度のいわゆる周囲の平均値を出したものだというふうに聞いております。昨年までの全国の新庁舎建設につきましても、ほぼ、坪で言いますと150万から、高いところで180万という部分もございます。安いところ、例えば鉄骨でやる場合は坪で120万とかという部分もございますけども、下田市の場合はRCSという部分で、侵攻後の物価を考慮した場合に、建築費というのがこれから危惧されてくるんだろうと思います。既に鋼材費、材料そのものは突拍子もない高騰をしております。3割から5割。例えば1週間前の市況によりますと、鋼板そのものは、これロシアからの輸入品がほとんどなんですが、これが70%アップしております。これも建材ですよ。鉄骨だけでは当然ございません。

ですから、これらにつきまして、大手ゼネコンあるいは中堅建設会社は、原料費を高騰を、これは食料品についても同じなんですが、ぎりぎり抑えて我慢すると。パン屋さんもそうです。原料費の高騰、そば屋さんもそうです。ぎりぎり我慢しながら現状は維持してるわけですね。それがいつか爆発する時点が近々来るだろうという予想がニュースで流れております。

そうしますと、現在、坪151万で見積もられている金額が、例えば、大ざっぱな話をしますと、3割上がれば百九十何万、6,000平米にしますと39億から40億というのが、本当に大ざっぱな数字でございますけどもね、そういったものが予想されなくもない。プラス金利が

3億から3億5,000万かかってまいります。

さらに、先ほどのお話の中で気がついたんですが、稲生沢体育館の解体費、それから技術棟の解体費、これらは現在示されておりません。恐らく億を超えていくんだろうと思いますが、これは総じて新庁舎建設に伴う総合経費の中に入らざるを得ない。そういうふうを考えるわけですね。そうしますと、財政的には相当厳しいなという思いがいたしまして、前回の轍を踏みつつあるというような危惧をいたします。

よって、現時点では、この設計費2,740万、これは立ち止まってもう一度検討いただき、納得する解決策、水害を含めてですね、それから財政上の疑義も含めて、いただく時点まで私は待ちたいと思うゆえに、修正を賛成いたします。

議長（滝内久生君） 次に、原案に対する賛成意見の発言を許します。ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（滝内久生君） 次に、原案及び修正案、両方に対する反対意見の発言を許します。ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（滝内久生君） 次に、修正案に対する賛成意見の発言を許します。ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（滝内久生君） これをもって討論を終わります。

これより議第35号 令和4年度下田市一般会計補正予算（第4号）を採決いたします。

まず、本案に対する沢登英信君及び佐々木清和君から提出された修正案について、起立により採決いたします。

本修正案に賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

議長（滝内久生君） 起立少数であります。

よって、沢登英信君及び佐々木清和君から提出された議第35号 令和4年度下田市一般会計補正予算（第4号）に対する修正案は否決されました。

次に、原案について起立により採決いたします。

本案に対する委員長の報告は原案可決であります。本案は、原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

議長（滝内久生君） 起立多数であります。

よって、議第35号 令和4年度下田市一般会計補正予算（第4号）は原案のとおり可決することに決定いたしました。

次に、議第36号 令和4年度下田市国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）を討論に付します。

まず、本案に対する反対意見の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（滝内久生君） 討論はないものと認めます。

採決いたします。

本案に対する委員長の報告は原案可決であります。本案は、委員長の報告どおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（滝内久生君） 御異議はないものと認めます。

よって、議第36号 令和4年度下田市国民健康保険事業特別会計補正予算（第1号）は、委員長の報告どおり、これを可決することに決定いたしました。

ここで休憩したいと思います。午後1時10分まで休憩します。

午後0時5分休憩

午後1時10分再開

議長（滝内久生君） 休憩を閉じ会議を再開いたします。

ただいまより議会運営委員会を開催しますので、委員の方は第1委員会室にお集まりください。

ここで暫時休憩します。

午後1時11分休憩

午後1時15分再開

議長（滝内久生君） 休憩を閉じ会議を再開いたします。

お諮りいたします。

橋本智洋君から、議第35号 令和4年度下田市一般会計補正予算（第4号）及びこれに対する修正案においての討論での発言について、会議規則第64条の規定により、「やはり、体育館、3億、解体費に約3億ですか、かかりますけれども」の部分で、「解体に費用がかか

りますけれども」に訂正したい旨の申出がありました。この訂正申出を許可することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（滝内久生君） 御異議はないものと認めます。

よって、橋本智洋君からの発言の訂正申出を許可することに決定いたしました。

ここで橋本智洋君より発言を求められておりますので、これを許可いたします。

10番 橋本智洋君。

10番（橋本智洋君） 貴重なお時間をいただきまして申し訳ございません。発言訂正申出ということで、6月16日の本会議における私の発言のうち、以下の部分を訂正したい旨、議長の許可を得たく、下田市議会会議規則第64条の規定により申し出ます。

まず、私の数字の認識不足でこのような発言をしてしまい、大変申し訳ございませんでした。やはり数字の部分に関しては今後も気をつけなければいけないことだと思いますので、こちらに改め、訂正させていただきます。

当初、賛成討論中の「やはり、出入りが混み合うと、市道にはみ出しやすく、リスクを負うというようなことになります。」次の言葉で、「やはり、体育館、3億、解体費に約3億ですか、かかりますけれども」という発言をしました。こちらを訂正いたしまして、「やはり、出入りが混み合うと、市道にはみ出しやすく、リスクを負うというようなことになります。解体に費用がかかりますけれども」、「解体に費用がかかりますけれども」ということで訂正をさせていただきます。申し訳ございませんでした。

発議第5号の上程・説明・質疑・討論・採決

議長（滝内久生君） 次は、日程により、発議第5号 ロシアによるウクライナ侵略を厳しく非難し、即時撤退を求める意見書の提出についてを議題といたします。

提出者の説明を求めます。

11番 進士為雄君。

〔11番 進士為雄君登壇〕

11番（進士為雄君） 発議第5号 ロシアによるウクライナ侵略を厳しく非難し、即時撤退を求める意見書。

地方自治法第99条の規定により、ロシアによるウクライナ侵略を厳しく非難し、即時撤退を求める意見書を別紙により、衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、外務大臣に提出す

るものとする。

令和4年6月16日提出。

提出者 下田市議会議員 進士 為雄。

賛成者 下田市議会議員 沢登 英信。

同 小泉 孝敬。

同 鈴木 孝。

同 渡邊 照志。

同 矢田部邦夫。

同 江田 邦明。

同 進士 濱美。

提案理由。

ロシアによるウクライナ侵略を厳しく非難し、即時撤退を求めるため。

ロシアによるウクライナ侵略を厳しく非難し、即時撤退を求める意見書。

本年2月24日、国際社会の警告を無視し、ウクライナへの軍事行動を開始したロシアの侵略行為は、明らかに国連憲章と国際法への重大な違反行為であり、許すことのできない世界平和を脅かす犯罪行為である。

さらに、プーチン大統領の核兵器使用を示唆する発言についても、唯一の戦争被爆国として、断じて容認できない。

よって下田市議会は、「平和都市宣言」を行った都市として、世界の恒久平和を願い、ロシアによるウクライナ侵略に強く抗議するとともに、ロシアに対しウクライナからの即時完全撤退を強く求める。

日本政府におかれては、国際社会との緊密な連携により、毅然たる態度で、ロシアに対して即時無条件でのロシア軍の完全撤退を求めるとともに、平和的解決に向けた外交努力、及びウクライナに対する非軍事分野における人道支援に万全を期するよう強く要請する。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき、意見書を提出する。

令和4年6月16日。静岡県下田市議会。

以上でございます。

議長（滝内久生君） 提出者の説明は終わりました。

これより質疑を行います。

発議第5号 ロシアによるウクライナ侵略を厳しく非難し、即時撤退を求める意見書の提

出についてに対する質疑を許します。質疑ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（滝内久生君） 質疑はないものと認めます。

発議第5号についての質疑は終わりました。

提出者は自席へお戻りください。お疲れさまでした。

発議第5号 ロシアによるウクライナ侵略を厳しく非難し、即時撤退を求める意見書の提出について、お諮りいたします。

本案は委員会に付託することを省略したいと思います。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（滝内久生君） 御異議はないものと認めます。

よって、委員会付託を省略することに決定いたしました。

これより討論・採決を行います。

まず、反対意見の発言を許します。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長（滝内久生君） 討論はないものと認めます。

採決いたします。

本案は原案のとおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（滝内久生君） 御異議はないものと認めます。

よって、発議第5号 ロシアによるウクライナ侵略を厳しく非難し、即時撤退を求める意見書の提出については、原案のとおり可決することに決定いたしました。

常任委員会の閉会中の継続調査について

議長（滝内久生君） 次は、日程により、常任委員会の閉会中の継続調査についてを議題といたします。

総務文教委員会、産業厚生委員会のそれぞれの委員長から、お手元に配付してありますように、議会閉会中の所管事務調査の申出があります。

お諮りいたします。

各常任委員会の申出のとおり、令和4年度議会閉会中の継続調査に付することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

議長（滝内久生君） 御異議はないものと認めます。

よって、各常任委員会所管事務調査については、議会閉会中の継続調査に付することに決定いたしました。

議長（滝内久生君） 以上で、本定例会に付議されました案件の審議は全て終了しました。

ここで佐々木教育長より発言を求められておりますので、これを許可いたします。

教育長。

教育長（佐々木文夫君） 貴重なお時間をいただきまして誠にありがとうございます。

平成27年7月の21日に教育長を拝命して以来、7年間、2期と1年間、長きにわたり教育長を務めさせていただきました。その間を振り返ってみますと、給食センターの着工と同時に、公設民営化、あるいは公会計化、そして浜崎小東館の建設、放課後児童クラブ全小学校への開設、そしてコロナ禍による全校休校への対応等、またオリ・パラ聖火リレー実施、そして、ソフト面では英語検定や体験プログラムへの補助金交付など、私は3人の市長さんの下、様々な教育施策を実施してまいりました。まだまだ課題も多く、特に図書館建設や公民館の廃止等の問題を残しての辞職となり、誠に申し訳なく思います。

議会の皆様には公私にわたり本当にお世話になりました。皆様の教育に対する熱い思いを常に感じることができました。先ほど述べた施策に対しても御理解をいただいたことからこそ実現することができました。ありがとうございました。

最優先課題として、学校再編に対して教育委員会の方針を後押ししていただき、御協力、御支援により、この4月に新生下田中学校の開設の運びになりました。おかげさまで子供たちも先生方も素晴らしい環境で充実した学校生活を送っています。教育予算に対しましても、未来ある子供たちのため必要な予算をしっかりと確保しなさいと常に支援をしていただき、感謝申し上げます。

話は少し長くなって申し訳ありませんが、6月8日の一般質問での、急遽、中村議員さんから退任する私への御配慮の質問がありました。子供は宝、教育への大切さを十分理解していただいていたの御質問でした。ありがとうございました。

また、中村議員さんをはじめ、ほかの議員さんからも、人口減対策や、移住あるいは交流人口等の御質問が多々あったと思いますが、統合中学が、ほんの少しですが、寄与しているのではないかと思います。と申しますのも、下田中学校にサーフィン部が開設され、多くの

皆様から御寄附や御協力をいただいて活動しておりますが、現在、他市にお住まいの小学校6年生が下田中学校のサーフィン部に入部するために家族で移住するということが決まっている。また、下田にオフィスを構えていますワーケーションの方々に中学校での授業をしていただきます。そして何よりグローバルCITYプロジェクトがスタートしました。

施設面では素晴らしい体育館を新設していただき、橋本議員さんのお話にもありましたように、初めて6月5日に中学校のバスケットボールの県大会決勝、準決勝が行われました。西部や中部のチームが出場したわけですが、何チームかが前泊しました。経済効果も少しだけでもたらしただのではないかなと思います。また今後、全国に出場している県の強豪校のバスケットボールチームが下田に来て指導していただく予定です。そんないろいろな活動がある中で、ぜひ皆様にも今後とも、新生中学校での様々な教育活動が実践されております。ぜひぜひ応援隊として御支援をお願いをしたいと思います。

結びになりますが、議会と市当局は常に両輪となり難局を乗り越えることが最も大切ではないかと思います。それが市民のため、下田市発展のためにつながります。庁舎やごみ焼却施設等の問題では賛否両論があってわかりだと思っておりますが、市民の代表で最高の議決機関であるこの下田議会で可決し、決定したことにつきましては、民主主義のルールにのっとり、反対した議員さんも心を一つにして、未来の下田のために御尽力をお願いしたいと思います。

今後とも皆様のますますの御健勝と御活躍をお祈りしまして、お別れの挨拶とさせていただきます。本当に長い間ありがとうございました。（拍手）

議長（滝内久生君） 御挨拶ありがとうございました。

退任されます佐々木教育長におかれましては、長年にわたり下田市教育行政のために御尽力いただき、誠にありがとうございました。今後とも健康には十分留意され、御活躍くださることをお願い申し上げます。

長い間、本当にお疲れさまでございました。（拍手）

これをもって、令和4年6月下田市議会定例会を閉会といたします。

お疲れさまでした。

午後1時29分閉会